

3年生：一般選抜受験に向けて追い込み

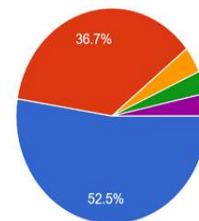
1月14日(土)・15日(日)の大学入学共通テストを終え、自己採点結果を基に出願先を固めた受験生は、いよいよ二次試験や私立大等の試験に臨みます。大学進学を目指す場合、国公立は最大で前期、中期、後期の三校まで受験できますが、二次試験として何がどのくらい課されるかは学校、学部によって異なります。国公立の前期試験は2月25日、後期試験は3月12日と1ヶ月以上の時間があるので、その間みっちり対策に取り組んで力をつけることができる、受験生が最も伸びる時期であると言われています。過去の先輩の中にも、厳しい判定結果を覆し、合格を勝ち取った人が何人もいます。共通テストで思うように点数が伸びなかった人も、逆転を目指してもうひと頑張りです。

1、2年生：来年度に向けて始動

1月31日(火)に、学校推薦型・総合型で進路が決定している3年生による、合格者体験報告会が行われました。6つの分野に分かれて、どのような準備や対策を行って試験に臨んだか、本番の試験はどのようなであったかなどについて詳しく話を聞き、指導に携わった先生方からは、講評やアドバイスをいただきました。どの分野でも共通していたのは「早く進路を決め、早く動き出すこと」「授業への取り組みや課題の提出、生活態度をきちんとしておくこと」「情報収集を丁寧にするこ」の大切さです。今回受けた刺激をこの後の進路研究と対策に結びつけていきましょう。



今日の講座を聞いて気持ちの変化はありましたか
177件の回答



- 進路に向けて、頑張りたい気持ちが強くなった
- 進路や試験内容について、よく調べてみようと思った
- 進路について、考え直そうと思った
- 進路について、不安な気持ちが大きくなった
- 特に変化はなかった

2学年アンケート結果より

アンケート結果では「進路に向けてがんばりたい気持ちが強くなった」「よく調べてみようと思った」の合計が、1学年では86.8%、2学年では89.2%。自分の現状についての質問「自分がどのくらい取り組んでいるか」に対しては、「現在の努力で第一志望に届く」と答えた人は、1学年で2.5%、2学年では7.9%のみ。まだ目標が定まっていない人も、1学年で36.1%、2学年でも23.7%います。とにかく興味あることから調べ始めたり、今の考えに固執せず、視野を広げて色々な体験活動や講座に参加してみてもいいでしょうか。

合格者体験報告会のレポートから

- ・私はこの報告会を聞いて、自分が今まで行ってきた希望進路達成に向けた行動が、合格者と比べて、全然足りていなかったということを感じました。合格者は基礎学力にプラスして、希望する進路の分野に関することを調べたり、オープンキャンパスに行って教授に直接話を聞いたりしたと聞きました。自分も今から行動していきたいです。(理工分野)
- ・今日の体験報告会で、自分に足りないもの、やるべきことを知ることができました。一番改善したいと思ったことは生活態度です。授業に集中することだけでなく、提出物をしっかり出すこと、遅刻早退を安易にせず体調管理をしっかりすることなどたくさんあり、これらを改善していくことからまずは始めたいと思いました。(就職・公務員分野)
- ・この講座で受験の大変さがわかりました。部活で勉強する暇がないとか言っている場合じゃないんだと思いました。先輩方も最後まで部活動を頑張ったと言っていたので、自分も先輩の後を追って頑張らなければと思いました。大学を決める時には、金銭的なことも考えて、親ともしっかり話し合っておかなければいけないと思いました。(スポーツ分野)
- ・早めに志望校をひとつに決めて、その志望校の受験資格の条件や面接内容について調べる。また、面接の実演を見て、5分間のプレゼンでしっかりアピールするには、大学についての理解を深めてアドミッションポリシーと自分の考えを結びつけながら話さないといけないことがわかったので、面接ノートなどを作り、早いうちからまとめていきたい。一番大事なのは、毎日の積み重ねだということをおぼえてはいけないと思った。直前になって焦ってやるよりも、毎日色んな事を吸収していったほうが、人としても成長できると思った。(経営・経済分野)
- ・進路はここがいいとか、この道もいいなと漠然と考えてはいましたが、うまく決まらず、結局まだ大丈夫だろうと先延ばしにしていたのですが、今回の報告会はとてもためになりました。先輩方が進路を決定し、勉強し出した時期が着々と近づいていることを知り、自分も早い内からたくさん努力することが大事だと思いました。
- ・先輩は、小論文の過去問を20年分解いて、志望理由書を11回も書き直していた。小論文は1日1題を意識してやっていて、難しい問題の時は3日も考え続けたと言っていて、本当にすごいと思った。自分も今やれることをやって後で後悔しないように、一日一題はできなくとも、ゲームとか無駄な時間は勉強に使いたいと思いました。(栄養・社会福祉分野)
- ・面接の再現を見て、難しいことを聞かれているのにスラスラ答えられていてすごいと思った。私にはまだ先輩方が答えている言葉などが理解できなかった。先輩のレベルまでもっていくのは、相当大変なんだと実感した。自分が高校受験した時は面接試験がなかったので、大学受験の時に面接するのが、少し不安になりました。(看護分野)



進路について知りたいことがあったら、まず「進路の手引」を見てみましょう。

- ・必要経費と奨学金
 - ・調査書の記載内容
 - ・受験のスケジュールや内容
 - ・就職、公務員試験の日程や流れ、求人票の見方
 - ・過去の合格実績 など
- 進学・就職に関する役立つ情報がたくさんあります！

冬季学習会（1、2学年）が行われました

1月4日（水）～6日（金）の3日間、1～2学年の国公立大希望者を対象に、1年生は東奥日報社ビル、2年生はアスパムを会場に、冬季学習会が行われました。2年生は国数英と理科の4教科の講習を受け、受験を見据えて応用問題に取り組むことで、レベルアップを図りました。1年生は国数英の3教科の講習と、ベネッセコーポレーション梶田さんによる学習への取り組み方に関する講演、卒業生による講演と交流会が行われ、自分の生活を見直し、学習時間を確保して基礎を固めていくことの大切さ、受験の厳しさについて、認識を新たにすることができました。

【卒業生のお話から】

○小川快都さん（弘前大学教育学部）

英語の教員になりたい、親孝行がしたいという思いで、A0入試（当時）にチャレンジしたが不合格、一般選抜で合格した。A0入試の対策で勉強が遅れていたため、挽回するため目を開けている間はすべて勉強時間に費やし、電車では座ったら寝てしまうので立ったまま勉強した。周りに流されず努力するのはきつかったが、おかげで今は夢に向かってレベルの高い授業を受けながら、部活動（柔道部）でも結果を出すことができている、とても充実している。

※弘前大学柔道部は令和4年度東北学生柔道優勝大会で優勝。兄で主将の小川翔太郎さんも北高出身です！

○工藤言子さん（青森県立保健大学健康科学部）

A0入試（当時）は倍率10倍、三次試験までである厳しい試験で、先生方の助けを借りながら必死に対策に取り組んだ。膨大な資料を読んで知識をつけ、自分の考えをまとめて話す練習を毎日続け、合格発表の日は、手が震えてPCを操作できなかった。一緒に頑張っていた友人達が支えになり乗り越えることができたので、合格後は周りの助けになるように手伝ったり行動するよう心がけた。入学してから新しい目標を見つけ、その実現に向けて頑張っているが、厳しい受験を乗り越えられたことが自信になっている。みなさんには、目標がはっきり決まっていなくてもとにかく色々調べて選択肢を広げることをおすすめしたい。

○川崎慧奈さん（青森公立大学経営経済学部）

公務員志望だったので初めは進学する気がなかったが、とにかく日々の勉強は頑張っていた。おすすめなのは、学校の先生方を味方につけて勉強すること。私はプリントをもらったり添削してもらったりしていたが、先生方はその道のプロだし、無料で喜んで協力してくれるので、頼らないのはもったいない。先生方の勧めもあって一般受験で進学し、今はマーケティングやイベント運営に関わるゼミで学び、よさこいサークルにも参加するなど、将来の夢に向けて活動している。みなさんに言いたいのは、大学入学はゴールではないということ。目指す就職につながる良い環境は、自分で求めなくては得られないし、そのために何に取り組むかも自分次第。頑張ってください。

貴重なお話ありがとうございました！



やっぱり心配 ～お金の話～

合格者体験報告会のアンケートの中で「知りたいこと」を尋ねたところ、多く挙がっていた項目のひとつに、「学費や奨学金のこと」がありました。どんなに行きたい気持ちが強くても、経済的に可能でなければ実現しません。せっかく合格を勝ち取っても、残念ながら必要な費用が捻出できず、断念するケースも時々見られますので、事前に保護者とよく話し合っておく必要があります。では、実際どのくらいの費用がかかるのでしょうか。

1 いくらかかるのか

学費には、入学時に納める入学金と、年ごとにかかる授業料や諸費用があります。国立大学は一部を除いて全国一律ですが、公立大学は地域内と地域外で異なりますし、私立大学は学校・学部ごとに異なりますので調べてみましょう（※蛍雪時代11月号に学費早見表が掲載されています）。学費の他に、住居費や食費などの生活のための費用も考えておかなければなりません。進学先に寮はあるか、特待生などの制度が利用できないか、入学後の減免制度はあるかなど、細かな点は、HPだけでなく、オープンキャンパスや進学相談会などに足を運んで情報収集しましょう。

●国公立大			●青森公立大			●私立大（参考：平均値）			
	昼間部	夜間部		東青地区管内	県内	県外	文系	理系	
入学金	282,000	141,000	入学金	156,600	219,200	313,200	入学金	225,651	251,029
授業料	535,000	267,900	授業料	535,800	535,800	535,800	授業料	815,069	1,136,074
							施設設備費	148,271	179,159

2 いつ払うのか

総合型、学校推薦型選抜が増加するにつれ、合格発表後の納付期限も早期化しています。つまり、そのような選抜方法で合格した場合は、10月～12月に入学金（+前期授業料等の場合もあります）として、ある程度まとまったお金を払うことになるということで、これは専門学校等も同様です。奨学金を利用する予定の人も多いと思いますが、このような場合の支払いには時期的に間に合わないため、注意が必要です。

【奨学金や教育ローン等について】

奨学金といえば、日本学生支援機構のものが最も知られており、高校3年次の4月下旬から予約採用の募集が始まります。しかし他にも、給付型奨学金（高等教育の修学支援新制度）や県の奨学金などがあり、さらに、ひとり親、多子世帯、低所得世帯には優遇利息で利用できるローンや、福祉分野の貸し付け制度などもあるということも、先日参加した奨学金セミナーで聞いてきました。それぞれ条件があり、申し込み方法も複雑なので、来年度5月2日（火）に株式会社まなびシードから講師を招いて、保護者向け奨学金セミナーを開催する予定です。ぜひご利用ください。

※まなびシードでは、無料メール相談も実施しています。

HP「奨学金なるほど！相談所」→無料相談 または、info@shogakukin.jp まで

